

2017年6月7日



データサイエンティストの育成を目的とした 滋賀大学との産学連携について

第一生命ホールディングス株式会社(社長: 稲垣 精二、以下「当社」)は、データサイエンティストの育成を目的として、国立大学法人滋賀大学と産学連携協力の協定書を締結いたしました。

1. 連携協力の背景

近年、IoT(Internet of Things)などテクノロジーの急速な進展により、これまでにない膨大な量のデータの収集が進んでいます。こうしたビッグデータを分析し、新たな付加価値を創出するデータ分析のスペシャリストであるデータサイエンティストの需要が高まる一方、欧米に比べて、日本では人財が不足しており、育成は重要な課題となっています。こうしたなか、データサイエンスに関する人財を育成する本格的な教育機関として、国立大学法人滋賀大学は、2017年4月に日本初となる「データサイエンス学部」を創設しました。

第一生命グループでは、2016年1月より、生命保険事業のイノベーション創出に向けて、“InsTech”(※1)を推進しており、その重要なテーマのひとつとして、ビッグデータ解析による新しい付加価値の創出に向けて取り組んでいます。例えば、ネオファースト生命では、第一生命が有する約1,000万人の医療ビッグデータ等の解析を行い、健康寿命の延伸に貢献する新しい保険商品の開発を実現させています(※2)。

2. 連携協力の目的と内容

第一生命グループは、InsTechを通じて得たビッグデータ解析の知見・ノウハウをデータサイエンス分野の大学教育に活かすことで、将来のデータサイエンティストの育成に貢献していきます。具体的には、第一生命グループから、統計学や保険数理等に知見のある人財を講師として派遣します。また、将来的には、同大学データサイエンス学部からのインターンシップの受入等も検討します。

今後も、第一生命グループは、産学連携のコラボレーションを積極的に行うことで、生命保険事業のイノベーション創出に向けた取組みを進め、革新的な保険商品・サービスの提供を目指していきます。

※1 保険ビジネス(Insurance)とテクノロジー(Technology)の両面から生命保険事業独自のイノベーションを創出する取組みであり、当社グループは、最優先の戦略課題としてグループ全体で推進しています。他業態と連携したエコシステムの実現等も視野に入れ、外部の開発力やアイデアを積極的に取り入れながら生命保険業界全体のイノベーションをリードしていくことを目指します。

※2 詳細はネオファースト生命のホームページをご参照ください。

ネオファースト生命ホームページ: <http://neofirst.co.jp/>